

安全データシート

(SDS)

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	e-シート・e-シートクイック
製品番号	
会社	: サンコーテクノ株式会社
住所	: 千葉県流山市西深井 1028-14
担当部門	: 機能材本部
電話番号	: 04-7155-6300, FAX 04-7155-6322
e-mailアドレス	:
緊急連絡先	: 04-7155-6300
製品の種類	:
用途と使用上の制限	:
作成日	: 2014年1月30日
改訂日	: 2017年5月15日

MSDS整理番号 ES-03

2. 危険有害性の要約

GHS分類

下記に記載がない場合項目は、「分類できない」あるいは「分類対象外」

<物理化学的危険性>	: 指定可燃物 区分外
<健康に対する有害性>	: -
<環境に対する有害性>	: -

GHSラベル要素

成分情報

- ・ 該当なし

国、地域情報

- ・ 指定可燃物 合成樹脂類

注意書き

<安全対策>

- ・ すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・ 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。
- ・ 取り扱い中は、皮膚に触れないように注意し、保護手袋、保護眼鏡、保護マスク、保護衣などの適切な個人用保護具を着用すること。
- ・ 取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・ 環境への放出を避けること。

<応急処置>

- ・ 火災の場合には適切な消化方法をとること。
- ・ 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休憩させること。
- ・ 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けさせること。
- ・ 呼吸に関する症状が出た場合には、医師の診断、手当てを受けさせること。
- ・ 飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けさせること。
- ・ 眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて安易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。
- ・ 眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けさせること。
- ・ 皮膚に付着した場合は、多量の水と石けんで洗うこと。
- ・ 気分が悪いとき、皮膚刺激又は発しんが生じた場合は、医師の診断、手当てを受けさせること。

<保管>

- ・ 冷暗所に保管すること。
- ・ 暑さ・過熱から保護すること。
- ・ 直射日光を避けること。
- ・ 30℃以上の温度に長時間さらさないこと。

<廃棄>

- ・ 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

含有化学物質に関する該当法規制情報については 15 項「適用法令」を参照のこと。

化学名	ビニルエステル	メタクリル酸 エステル	アクリル系樹脂	ガラス繊維	その他
含有量 wt%	30～40	30～40	5～10	20～35	1以下
化学式 又は構造式	非公開	—	非公開	—	—
官報公示 整理番号	化審法番号：あり 安衛法番号：なし	化審法番号：あり 安衛法番号：あり	(6)-580 (化審法)	—	—
CAS No.	あり	—	25086-15-1	—	—

4. 応急措置

下記の応急措置を施すとともに、直ちに医師に連絡をとりその指示に従う。

- 吸入した場合 : 負傷者を新鮮な空気のある場所に移動し、休息させる。
嘔吐が自然に生じたときは気道への吸入がおきないように身体を傾斜させる。
水でうがいをする。

- 皮膚に付着した場合 : すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐ。
皮膚と接触した場合は、直ちに多量の水又は石鹼水で洗う。

(4. 応急措置 つづき)

眼に入った場合 : 直ちに清浄な水で5分間以上洗い流す。
眼と接触した場合は直ちに多量の水で洗い、医師の診断を受ける。
眼球を傷つける可能性があるのでこすらない。

飲み込んだ場合 : 嘔吐が自然に生じたときは気道への吸入がおきないように身体を傾斜させる。
事故の場合または気分が悪いときは、直ちに医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合は、直ちに医師の診断を受け、容器に記載された注意事項やラベル、SDSを示す。
飲み込んだ場合は、水で口内を洗う(負傷者の意識がある場合)。

応急措置をする者の保護 :

救急者は、保護具を着用する(暴露防止措置の注意事項を参照)。

医師に対する特別注意事項 :

直ちに医師の診断を受け、容器のラベルに記載された注意事項又はSDSを示す。

5. 火災時の措置

消火剤 : 泡、二酸化炭素、粉末。

使用してはならない消火剤 : 棒状水

特定の消火方法

周辺火災の場合 : 移動不可能な場合、容器、梱包及び周辺に散水し冷却する。

着火した場合 : 火元(燃焼源)を断ち適切な消化剤を用いて風上から消火。

消火を行う者の保護 : 火災により有毒ガスやヒュームが発生するので、適切な呼吸用保護具(送気マスク、自給式呼吸器等)を着用する。

6. 漏出時の措置

関係法規に準拠して作業する。

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 :

作業者は保護具(暴露防止措置、保護具の項を参照)を着用し、風上で作業する。

屋内の場合、処理が終わるまで適切な換気を行う。

漏出した場所の周辺にはロープを張る等して、関係者以外の立ち入りを禁止する。

環境に対する注意事項 :

漏出物が河川、水路等公共水路に流れ込むのを防止する。

除去方法

回収 : 漏出物を密閉可能な容器にできる限り集める。

残留物は土、砂等に吸着させて密閉可能な容器に回収する。

回収するときは、火花のでない器具を用いて回収する。

廃棄 : 回収した漏出物は廃棄上の注意に従って廃棄する。

二次災害防止策 :

付近の着火源となるものを速やかに取り除く。

火気厳禁。

漏出した場所の周辺には関係者以外の立ち入りを禁止する。

万一、河川公共水路等に流れ込んだ場合は、直ちに地方自治体の公害担当者に報告する。

7. 取扱い及び保管上の注意

関係法規に準拠して作業する

取扱い : 容器は注意して取り扱い、開ける。
使用時には飲食しない。
皮膚との接触を避ける。
眼との接触を避ける。
眼と接触した場合は直ちに多量の水で洗い、医師の診断を受ける。
全ての汚染された衣類を直ちに脱ぐ。
皮膚と接触した場合は、直ちに多量の水又は石鹼水で洗う。

技術的対策 : 加熱すると爆発の恐れ。
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
電気機器類は、防爆型（安全増型）のものを用いる。
取り扱い場所の近くに手洗い洗眼設備等を備え、その位置を表示する。
取扱いは換気のよい場所で行う。
作業中のコンタクトレンズの着用は好ましくない。
局所排気装置の設置された場所で作業する。
眼／顔面用の保護具を着用する。
適当な保護衣および眼／顔面用の保護具を着用する。
取り扱い後は手洗い、洗眼を十分に行う。

注意事項 : 取扱いは換気のよい場所で行う。
局所排気装置の設置された場所で作業する。

安全取扱注意事項 :

知見なし

接触回避 : 情報なし

保管 : 容器を換気のよい場所で保管する。
消防法危険物1, 6類と混載してはならない。
熱から離して保管する。
着火源から離して保管する一禁煙。
容器を密閉して保管する。

8. 暴露防止措置

設備対策 : 取扱いについては全体換気装置または局所排気設備を設置した場所で取扱う。
取扱い場所の近くにシャワー手洗い洗眼設備等を設けその位置を表示する。

許容濃度 : 情報なし

保護具

呼吸器の保護具 : 本製品を多量に使用する場合、または密閉空間で使用する場合には、送気式もしくは自給式呼吸器を推奨する。

手の保護具 : 不浸透性手袋（ウレタン製等）

目の保護具 : 保護眼鏡（ゴーグル型）または保護面（防災面）。

皮膚及び身体の保護具 :

帯電防止性能を有する、長袖の保護衣及び安全靴を推奨する。

9. 物理／化学的性質

・製品として

外 観 等 : シート状固体
 色 : 淡黄色
 臭い : 特異臭

・樹脂として

物理的状态が変化する特定の温度／温度範囲 :

情報なし

引火点 : 125℃ (クリーブランド開放式)

爆発範囲 : 情報なし

蒸気圧 : 情報なし

比重 (密度) : 1.0～1.2 (25℃比重として)

粘度 (粘性率) : 1.0～3.0 dPa・s (25℃ BM型)

その他のデータ : エステル、ケトン、芳香族系炭化水素に可溶。

10. 安定性および反応性

反応性 : 知見なし

化学的安定性 : 冷暗所で密閉状態では安定である

危険有害反応可能性 :

情報なし

避けるべき条件 : 金属粉等の混入。

50℃以上の高温。

紫外線が当たる状況。

危険有害な分解生成物 :

知見なし

11. 有害性情報

急性毒性 (経口) : GHS 区分を判断するための十分な情報なし

急性毒性 (経皮) : GHS 区分を判断するための十分な情報なし

急性毒性 (吸入 : 気体) : 分類対象外

急性毒性 (吸入 : 蒸気) : GHS 区分を判断するための十分な情報なし

急性毒性 (吸入 : 粉じん・ミスト)

: GHS 区分を判断するための十分な情報なし

皮膚腐食性・刺激性 : GHS 区分を判断するための十分な情報なし

眼に対する重篤な損傷・刺激性

: GHS 区分を判断するための十分な情報なし

呼吸器感作性 : GHS 区分を判断するための十分な情報なし

皮膚感作性 : GHS 区分を判断するための十分な情報なし

生殖細胞変異原性 : GHS 区分を判断するための十分な情報なし

発がん性 : GHS 区分を判断するための十分な情報なし

生殖毒性 : GHS 区分を判断するための十分な情報なし

特定標的臓器毒性, 単回暴露

: GHS 区分を判断するための十分な情報なし

特定標的臓器毒性, 反復暴露

: GHS 区分を判断するための十分な情報なし

吸引性呼吸器有害性 : GHS 区分を判断するための十分な情報なし

1 2. 環境影響情報

生体毒性

水生環境有害性（急性）	: GHS 区分を判断するための十分な情報なし
水生環境有害性（長期間）	: GHS 区分を判断するための十分な情報なし
オゾン層への有害性	: モントリオール議定書で列記された成分の含有情報なし
残留性／分解性	: 情報なし
生体蓄積性	: 情報なし
土壌中の移動性	: 情報なし

1 3. 廃棄上の注意

この製品及び容器・包装材は安全な方法で廃棄しなければならない。

残余廃棄物	: この製品は排水溝中に空けてはならない。 法令に従って、残余廃棄物、製品の包装材を廃棄処理する。 法的規則に適合した設備と方法で焼却処理を行う。 焼却条件によっては有毒ガスが発生する可能性があるため、除害装置のある焼却炉の使用を推奨する。 固化した e-シートは、産業廃棄物として専門の廃棄物処理業者に委託しても良い。
-------	--

汚染容器及び包装 : 情報なし

1 4. 輸送上の注意

国連番号	: なし
品名（国連輸送名）	: なし
品名（国連輸送名 英名）	: なし
分類又は区分	: なし
容器等級	: なし

- e-シート表面の透明なプラスチックフィルムの破損や末端処理の不具合に注意して、包装・荷造りをする。
但し、固化した e-シートはこの限りにあらず。
- 容器や包装に漏れのないことを確認する。又、転倒、落下等による梱包の破損がないように積込み、荷崩れ防止等の処置を確実に行う。
- 日光の直射及び雨水の浸透を防止する。
- 消防法、道路運送車両法、船舶安全法、港則法その他の関係法規を遵守する。

1 5. 適用法令

消 防 法	: 非危険物、但し、火災予防条例による指定可燃物
労働安全衛生法	: 名称を通知すべき危険物及び有害物 (法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 第 1 号、第 2 号・別表第 9) 該当しない
毒物及び劇物取締法	: 該当しない
船舶安全法	: 該当しない
航 空 法	: 該当しない

(15. 適用法令 つづき)

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法) :

該当しない

関連法規 : 化学物質の審査及び製造等の規則に関する法律 (化審法)
「ガラス繊維及びロックウールの労働衛生に関する指針」
(労働省 平成 5 年 1 月)

16. その他 (引用文献等)

引用文献

- 1) 国際化学物質安全性カード (ICSC)
 - 2) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS)
 - 3) 作業環境評価基準
 - 4) 産業衛生学会雑誌
 - 5) TLVs and BEIs (ACGIH)
 - 6) 米国連邦規則集 (OSHA)
 - 7) IARC Monographs on the Evaluation of Carcinogenic Risk to Humans (IARC)
 - 8) 法規制物質リスト (日本ケミカルデータベース)
 - 9) ケミカルデータベース (日本ケミカルデータベース)
 - 10) GHS 分類結果データベース (製品評価技術基盤機構 NITE)
 - 11) EU CLP 規制 (EC) No1272/2008 付属書VI 表 3.1
 - 11) その他の文献
ガラス繊維協会 ; 「ガラス長繊維の人体に及ぼす影響」 (平成 5 年 3 月)
-

記載内容の取扱い

記載内容は現時点で入手できる情報等にもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質等の値は保証値ではありません。又、注意事項は通常的な取扱いを対象としたもので、特殊な取扱い場合には、用途・用法に適した安全対策等を施してください。
